

研 究 分 野	海洋構造	部 名	浅海環境部
研 究 課 題 名	陸奥湾海況自動観測		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.7～H.18		
担 当	大水 理晴		
協 力 ・ 分 担 関 係			

### 〈目的〉

陸奥湾海況自動観測システムを運用し、陸奥湾の海況を即時的、連続的に把握してその情報を提供するとともに、海況予報技術の確立を目指す。また、他の調査研究事業と連携しながら、ホタテガイ養殖漁業に対する養殖管理情報を提供して陸奥湾における漁業生産の安定化に寄与する。

### 〈試験研究方法〉

陸奥湾海況自動観測システム（平館、青森、東湾、野辺地）で観測された水温、塩分、流向流速、溶存酸素量、風向風速などのデータをもとに海況の推移を把握する。観測項目、観測地点を以下に示す。

表 陸奥湾海況自動観測システム観測項目

	ブイ名	観測地点	観測水深	水温	塩分	溶存酸素	流向流速	気温	風向風速
テレメータブイ	平館	溝口部 平館村地先	1m	○	○				
		41° 09.12' N	15m	○	○		○		
		140° 40.86' E	30m	○	○				
		水深47m	45m	○	○		○		
	青森	西湾側 青森市地先	1m	○	○				
		40° 54.96' N	15m	○	○				
		140° 47.82' E	30m	○	○				
		水深45m	44m	○	○				
	東湾	海尖部	1m	○	○			○	○
		41° 06.06' N	15m	○	○				
		140° 57.95' E	30m	○	○	○			
		水深47m	46m	○	○	○			
自記ブイ	野辺地	東湾側 野辺地町地先	1m	○					
		40° 59.01' N	15m	○					
		141° 10.06' E	36m	○					

\*:東湾ブイにおける気温、風向風速は海上約4mで観測

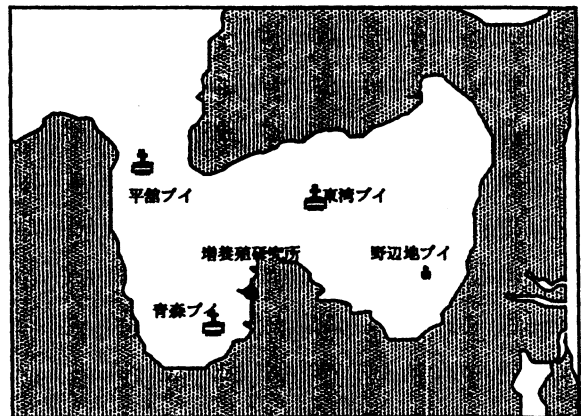
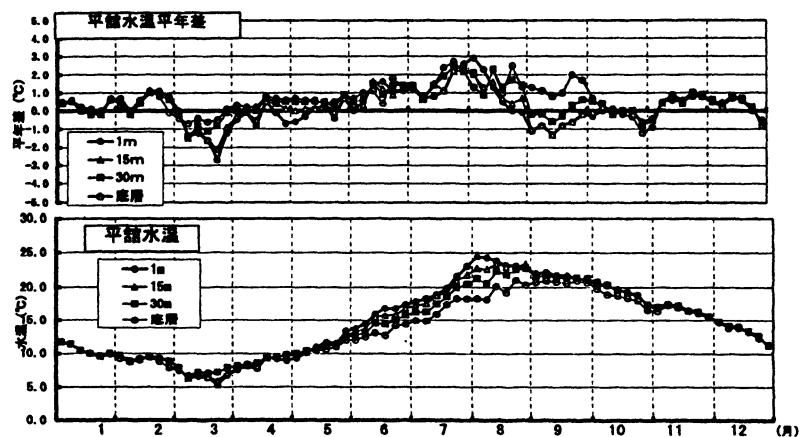


図 陸奥湾海況自動観測システム観測地点

### 〈結果の概要・要約〉

各ブイにおける年間の日平均水温の変化範囲は、平館ブイの1m層で4.4～24.8℃、15m層で4.5～23.7℃、30m層で5.8～23.4℃、底層で6.1～22.2℃、青森ブイの1m層で4.9～26.8℃、15m層で4.9～23.1℃、30m層で5.0～22.3℃、底層で5.0～21.3℃、東湾ブイの1m層で3.3～27.2℃、15m層で3.3～23.3℃、30m層で3.3～22.8℃、底層で3.3～19.7℃、野辺地ブイの1m層で3.0～26.2℃、15m層で3.0～24.3℃、底層で3.1～21.6℃であった。

### 〈主要成果の具体的なデータ〉



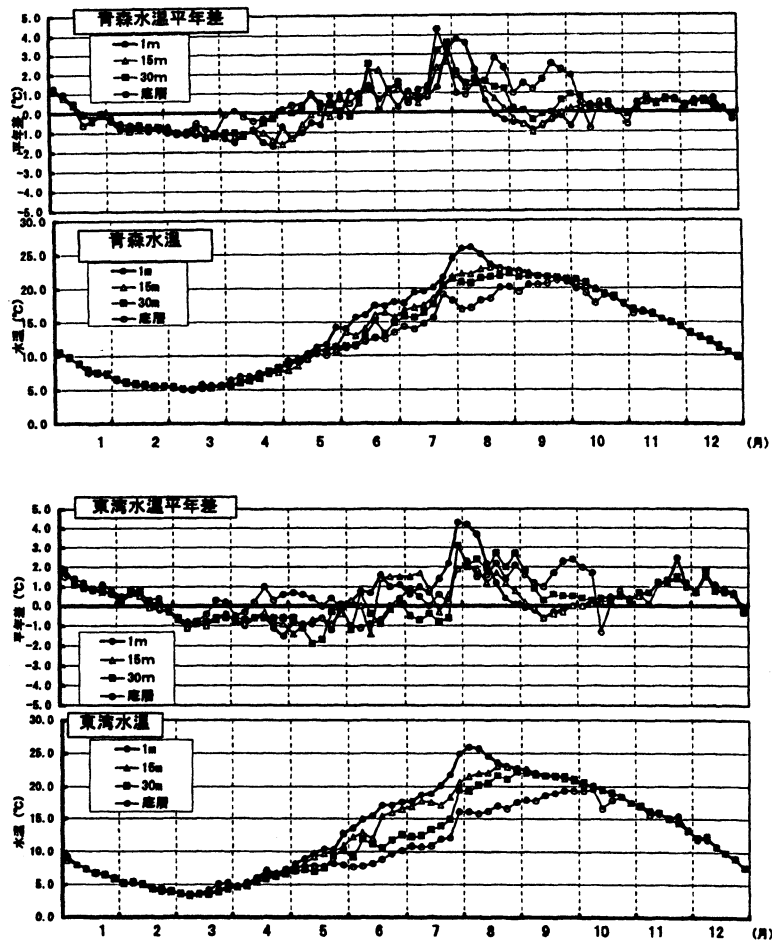


図 プイ別全層の半旬別水温とその平年差

#### 〈今後の問題点〉

システムの設計耐用年限（16年10月）が到来したことから、運用の困難度が増すものと考えられ、17、18年度に予定される更新までの間の保守管理をより慎重にすすめる必要がある。

#### 〈次年度の具体的計画〉

本システムの通年、毎時観測、稼働率100%を目指す。但し、17年度システム更新整備工事による基地局・青森プイの更新、野辺地プイの廃止に伴い一時的に観測を休止することもある。

#### 〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ 陸奥湾海況情報（No. 466～517）毎週火曜日発行。36機関（湾内市町村、漁協、県関係機関）にファックス配信、当研究所ホームページ上に掲載。
- ・ 東奥日報と読売新聞（毎時9時）、河北新報（毎時10時）朝刊に水温情報掲載。
- ・ 水温情報テレホンサービス（随時）、2004年の利用件数は年間696件
- ・ ホタテガイ春季・秋季実態調査に関わる会議（全4回）、ホタテガイ天然採苗会議（全10回）・ホタテガイに関する情報会議（全10回）において海況情報提供。
- ・ 弘前大学総合情報処理センターへ海面水温の衛星海面温度情報の補正のため毎時観測データ提供。
- ・ 蓬田村「海のたままつ館」（県土整備課砂防課所管）の公開データとして毎時観測データ提供。